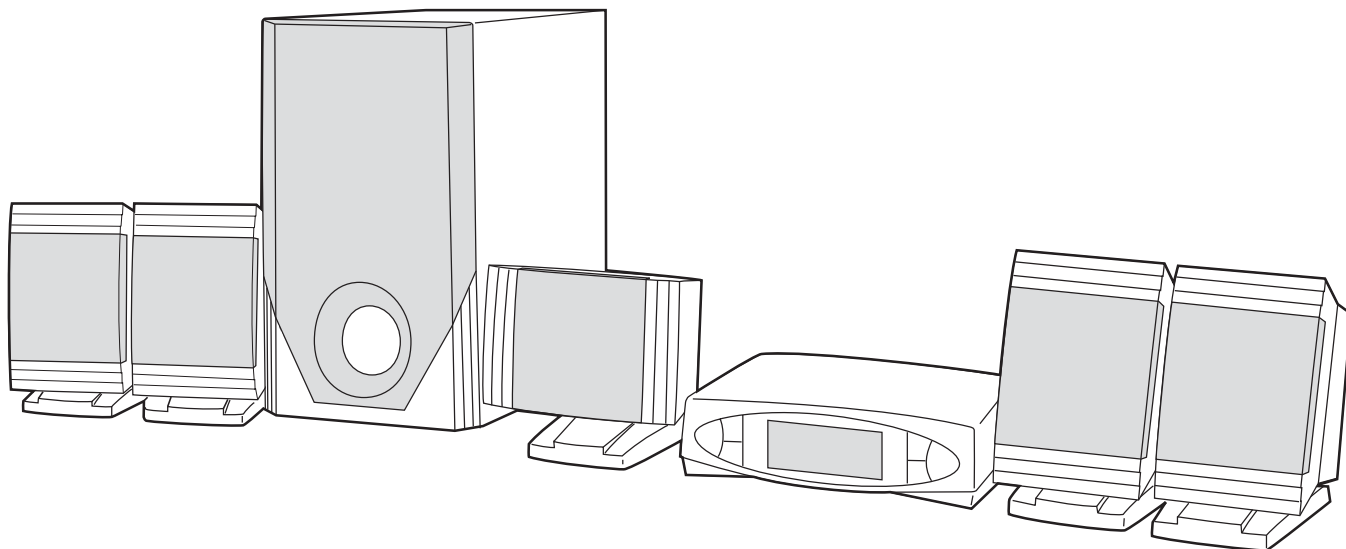
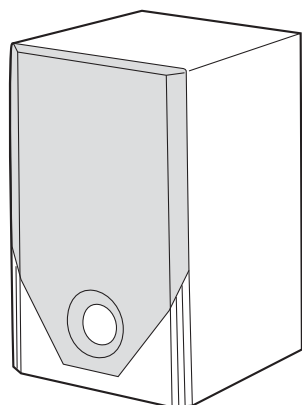
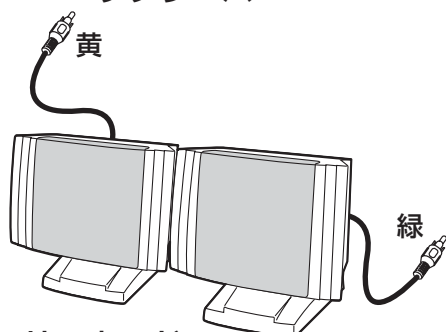
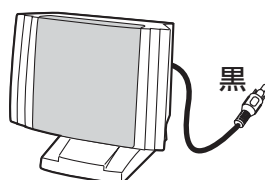
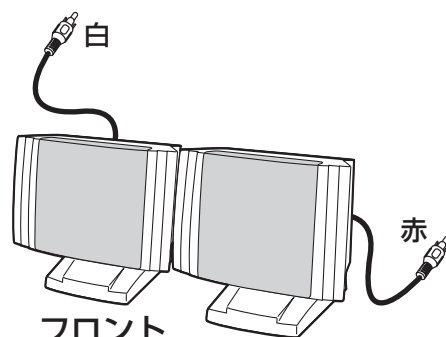
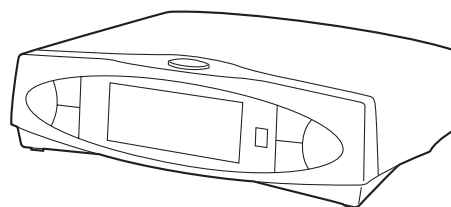
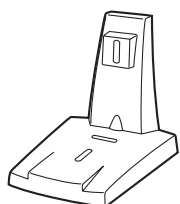
TEAC

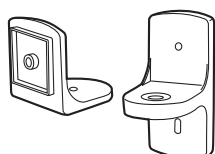
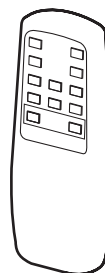
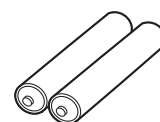
9A08665400

取扱説明書

PLS-5D

ホームシアターシステム

お買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

各部の名称/付属品

付属品

スピーカー
スタンド(x5)

角度可変スタンド
(x4)

専用リモコン　RC-5D

リモコン用乾電池
（単4 x 2）

電源供給ケーブル

接続ケーブル

デジタル同軸ケーブル

ピンケーブル

スタンド
取付けネジ
(x10)

角度可変スタンド
組み立て用ワッシャー
(x4)

木ネジ
(x10)

目次

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	⚠記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告	
	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店または当社サービスセンターに修理をご依頼ください。
	万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービスセンターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔(デコーダー背面のスリット、サブウーハーのダクト）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
	電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

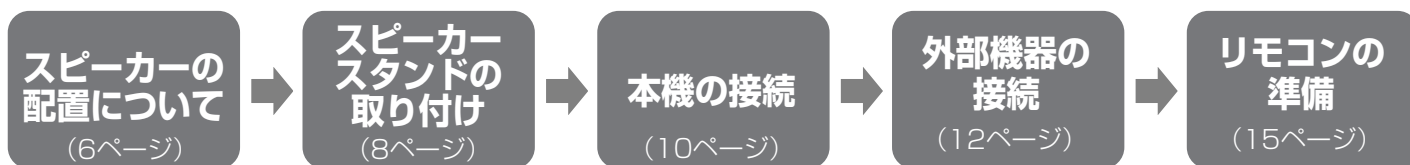
⚠警告

	この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
	サブウーハーを設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。 デコーダーをラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。すきまがないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

	オーディオ機器やゲーム機などを接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。
	電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。 ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所 ・湿気やほこりの多い場所 ・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所
	電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで、長期間この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

準備

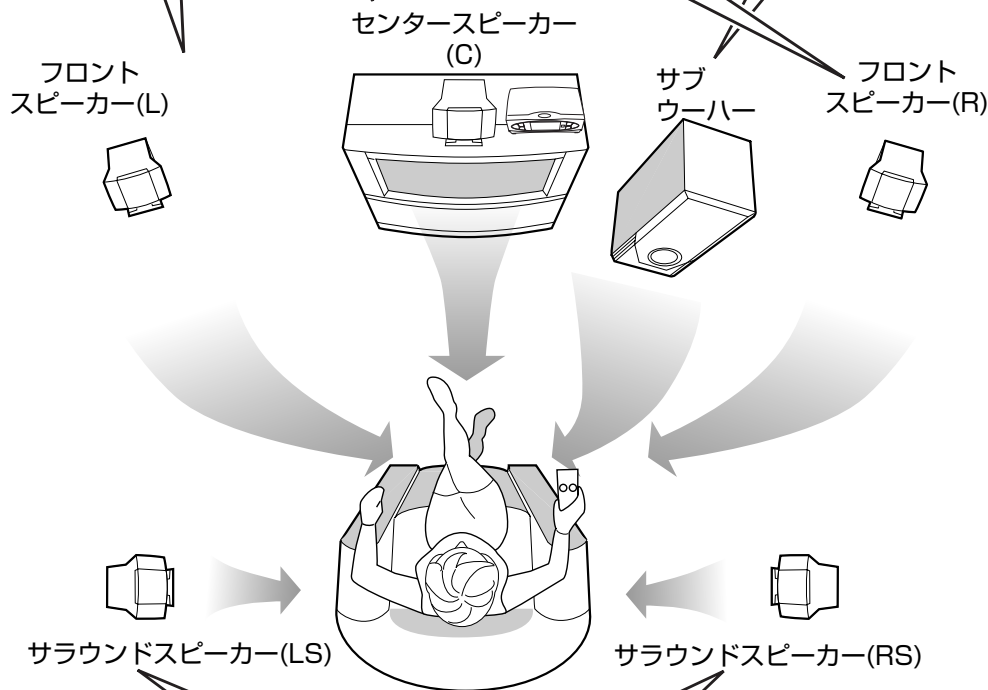
操作の前に準備作業を行います。その際、下記の順序で行ってください。

スピーカーの配置について

■フロントスピーカー(L, R)
センタースピーカー(C)

フロントスピーカー(L)はモニターの左側に、フロントスピーカー(R)はモニターの右側に、センタースピーカー(C)はリスナーの正面、モニターの上または下に配置します。
LとRのスピーカーは高さが極端に変わると、臨場感を損ねる場合があります。リスナーの耳の高さに合わせた上で、3個のスピーカーを同じ高さに配置すれば理想的です。

■サブウーハー

より効果的に重低音を得るためにできるかぎり、センターに配置してください。

センタースピーカー(C)
フロントスピーカー(L)
サブウーハー
フロントスピーカー(R)
サラウンドスピーカー(LS)
サラウンドスピーカー(RS)

■サラウンドスピーカー(LS, RS)

リスナーの側面に置くことによって、より効果的なサラウンドが得られます。LSは左側、RSは右側で、耳の高さよりやや高め(1m以内）に配置してください。

スピーカーの配置について

配置が決定したら、実際にシステムを箱から出して仮に置いてみます。

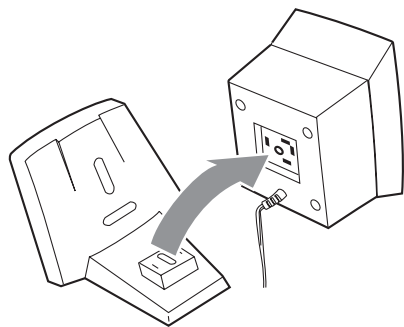
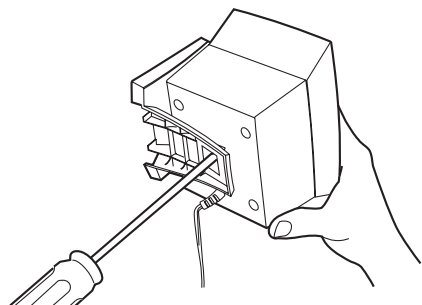
配置位置を検討する際は、スピーカーコードの長さにご注意ください。この製品はフロント側3m、リア側8mの余裕があるコードがついています。またコードの処理方法についても配慮してください。

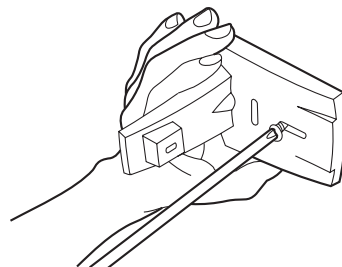
⚠注意

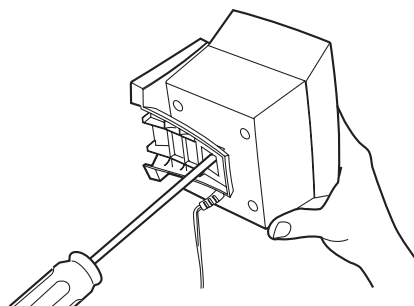
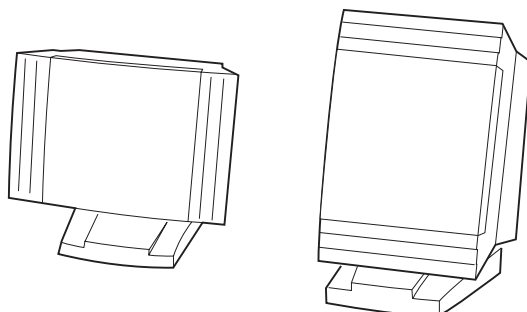
● サブウーハーの内部には高圧電流が流れている個所があります。裏ぶたのねじを外して内部に触れると危険です（サブウーハー内部にはお客様ご自身で調整及び部品の交換などをするところはありません）。
● 空中を横切るような配線をすると危険です。また、コードを釘で固定することは危険です。市販の固定器具をご使用下さい。余ったコードを丸く束ねると音質に影響をあたえることがある上、危険です。
● サブウーハーは低音を大音量で再生すると振動します。そのため机の上や棚に載せた場合、落下する可能性がありますので床に直置きして下さい。
● サブウーハーは電源とアンプを内蔵しています。放熱のためにも周囲に8cm以上余裕がある場所に配置して下さい。（壁などに埋め込んでのご使用は避けてください）
● サブウーハー内蔵のアンプはサブウーハーの空気振動により冷却されています。サブウーハー前面の穴（ダクト）の前に物を置いてふさがないでください。過熱・火災の原因となります。
● 直射日光や熱源（ストーブ等）から離して置いてください。
● サブウーハーはデコーダーに常時電流を供給しています。（サブウーハーのメインスイッチを切っている場合とデコーダーの電源を切っている場合も含みます）このため、サブウーハーのキャビネットは常に暖かくなりますが、これは故障ではありません。
● 本機は磁力の影響が出にくい設計になっていますが、テレビに近づけて設置した場合、まれに色むらが出ることがあります。そのような場合にはスピーカーをテレビから離し、色むらの出ない距離でご使用ください。
● スピーカーの前に障害物を置くと、サラウンドの効果が損なわれることがあります。

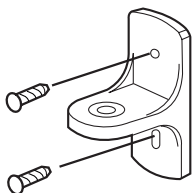
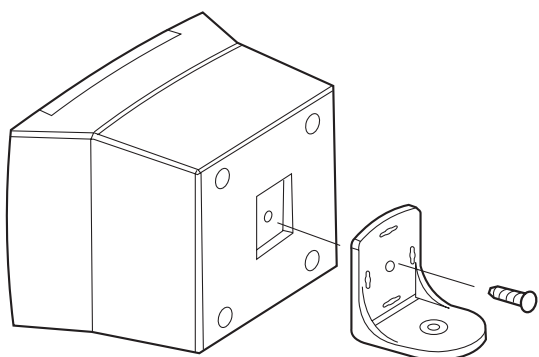
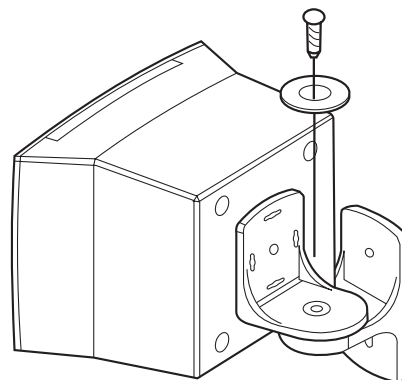
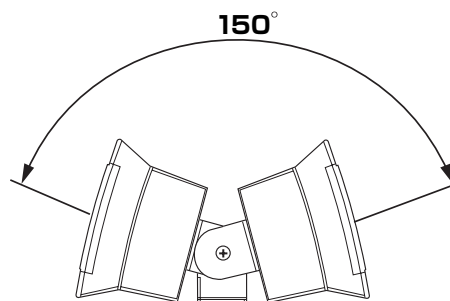
スピーカースタンドの取り付けをする

■通常の取り付け

1 各スピーカーの背面の凹部にスタンドの凸部を合わせます。

2 付属のネジで固定します。

■スピーカースタンドを壁などに固定してご使用の場合

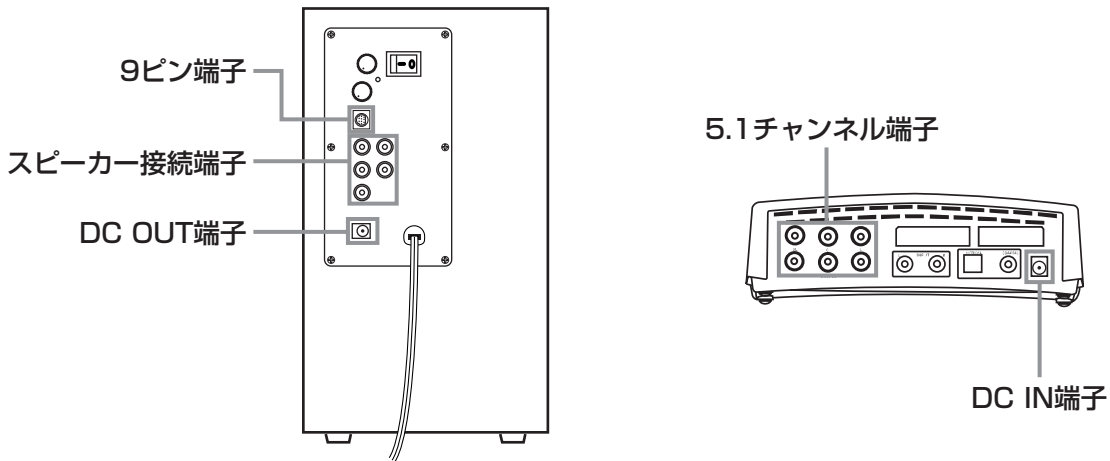
1 先にスピーカースタンドを付属の木ネジで固定してます。

注意：壁に取り付けの際は9ページの注意をよくお読みください。

2 付属のネジでスピーカーを固定します。

スピーカースタンドは、たて置きと横置きの2種類の方法で取り付けることができます。

■角度可変スタンドの取り付け

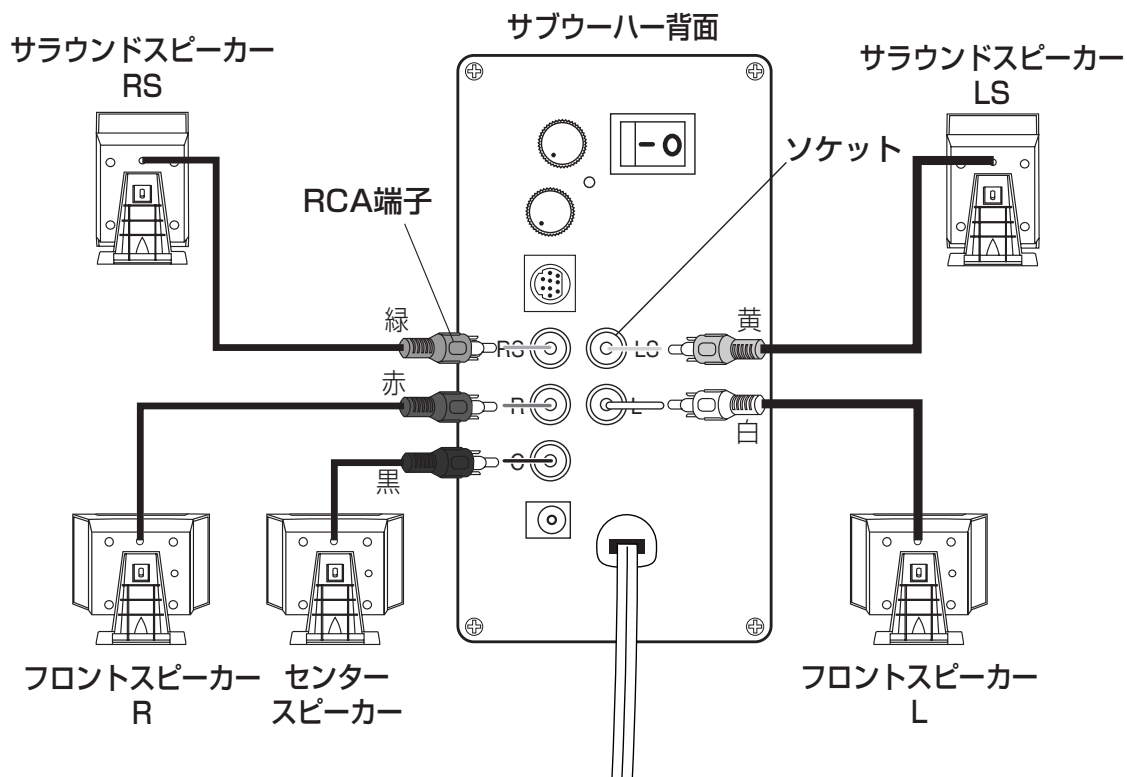
1 先に壁側のスタンドを、付属の木ネジで固定します。

2 スピーカー側のスタンドを、付属のネジで取り付けます。

3 スピーカー側と壁側のスタンドを､付属のネジとワッシャーで取り付けます。まずネジを軽くしめて、必要な角度を決定してからきつくしめます。

可変できる範囲は以下の通りです。

⚠壁に取り付ける場合の注意

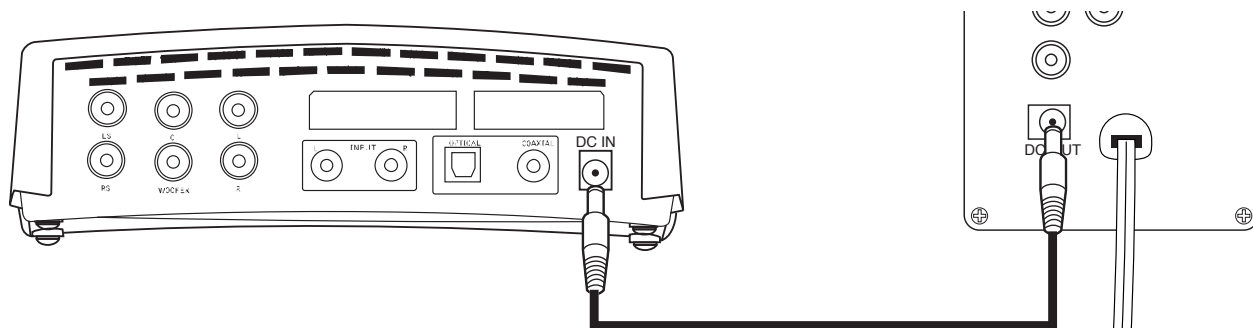
- ●取り付け部の強度が弱いと、スピーカーが落下することがあります。壁、柱などへの取り付けはお客様ご自身の責任において実施してください。
- ●付属の木ねじは、取り付け部の材質により、ご使用に適さないことがあります。付属の木ねじを使用することによって生じた建物への損害について当社では一切の責任を負いません。
- ●スピーカーはその性質上、振動するものです。スピーカーとスタンド及びスタンドを壁などに固定している場合はその部分のねじの緩みについて随時点検してください。ねじの緩みが原因となった落下事故について、当社は一切の責任を負いません。
- ●取り付けにあたって、電動工具を使用して最後までねじをしめた場合、製品を破壊することがあります。必要以上にしめつけないで下さい。ねじが確実にしまっているかを確認してください。
- ●万一破損した場合は、破損した製品を接着剤などで補修すると危険です。この場合は、もよりの当社営業所にご相談ください。

スピーカーの接続をする

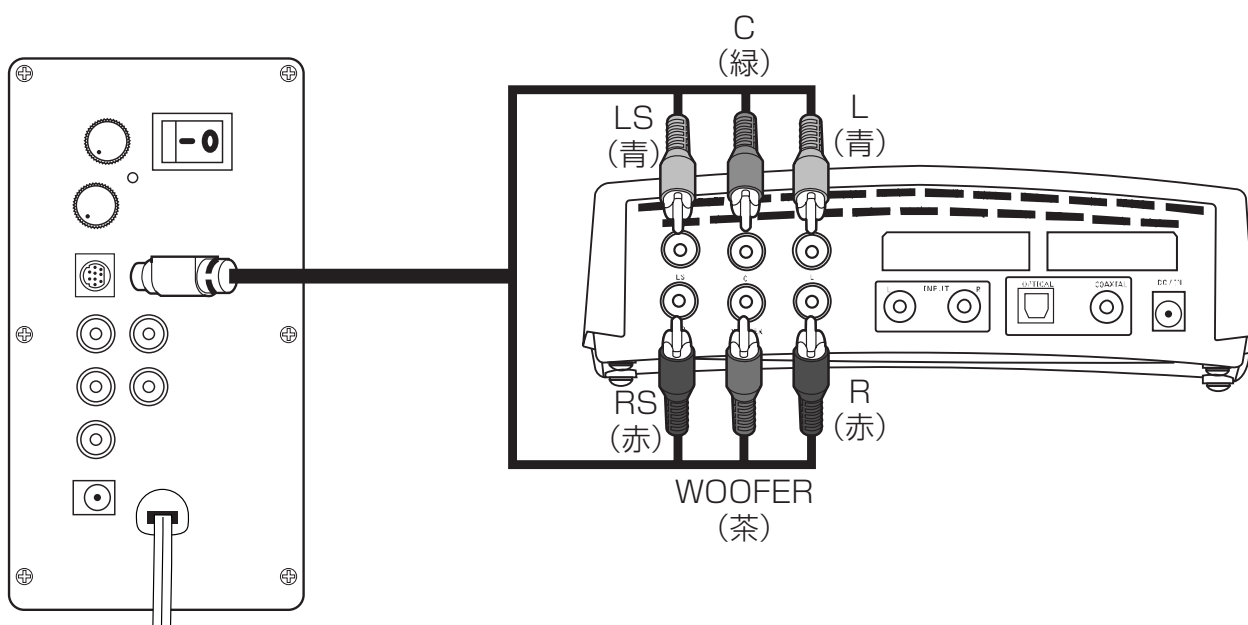
⚠接続時のご注意　**すべての接続が終ってから電源プラグを差し込んでください。**

■サブウーハーとサテライトスピーカーの接続

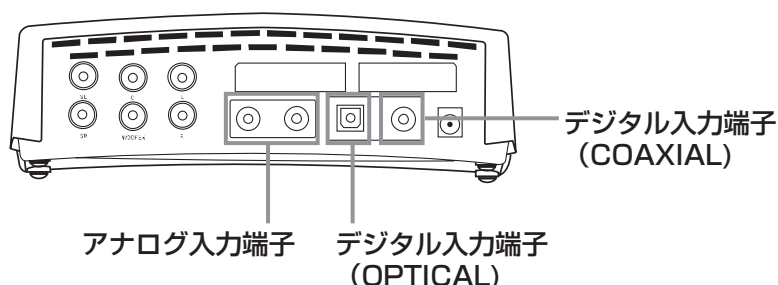
サテライトスピーカーのそれぞれのピンプラグを、サブウーハー背面にある端子に差し込みます。

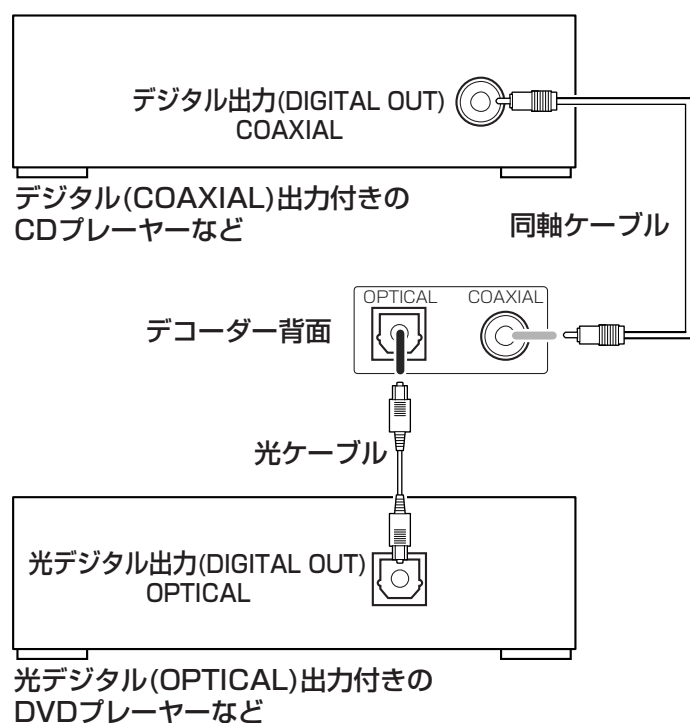
●端子の色と同色のピンプラグを差し込んでください。

■サブウーハーとデコーダーの電源接続

サブウーハー背面のDC OUTと表示された端子と、デコーダー背面のDC INと表示された端子を電源供給ケーブルでつなぎます。

■サブウーハーとデコーダーの接続

サブウーハー背面の9ピン端子に、接続コードの9ピンプラグを差し込みます。
次に6本のピンプラグを、デコーダー背面の5.1チャンネル端子に差し込みます。

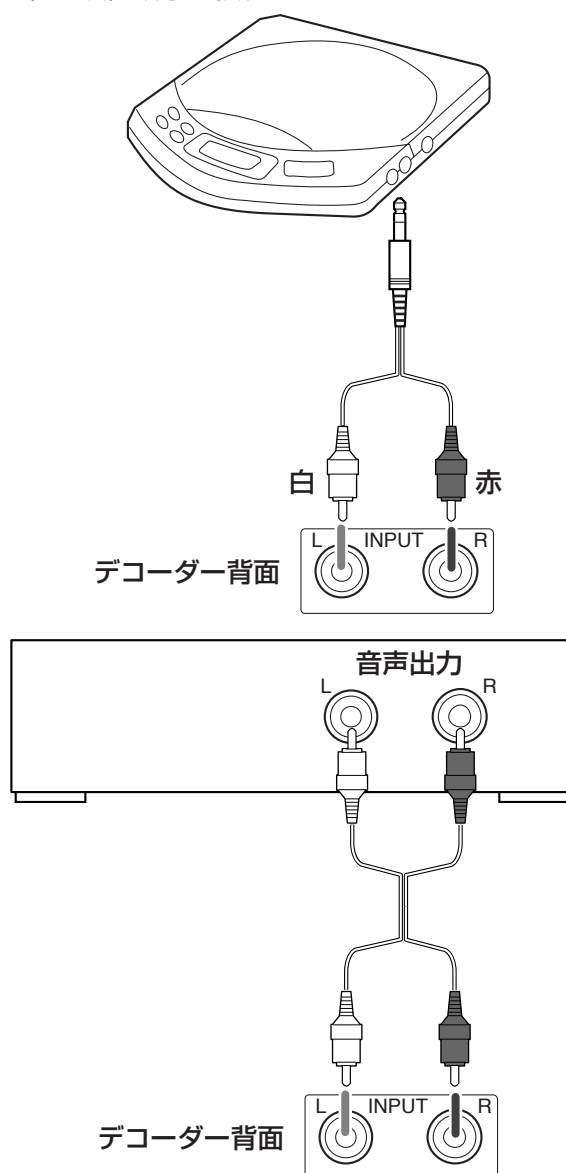
●L、R、C、LS、RS、WOOFERの表示が、ピンプラグの近くに表示してあります。デコーダー側の表示に合わせて差し込んで下さい。

外部機器の接続をする

⚠接続時のご注意　**すべての接続が終ってから電源プラグを差し込んでください。**

■デジタル接続

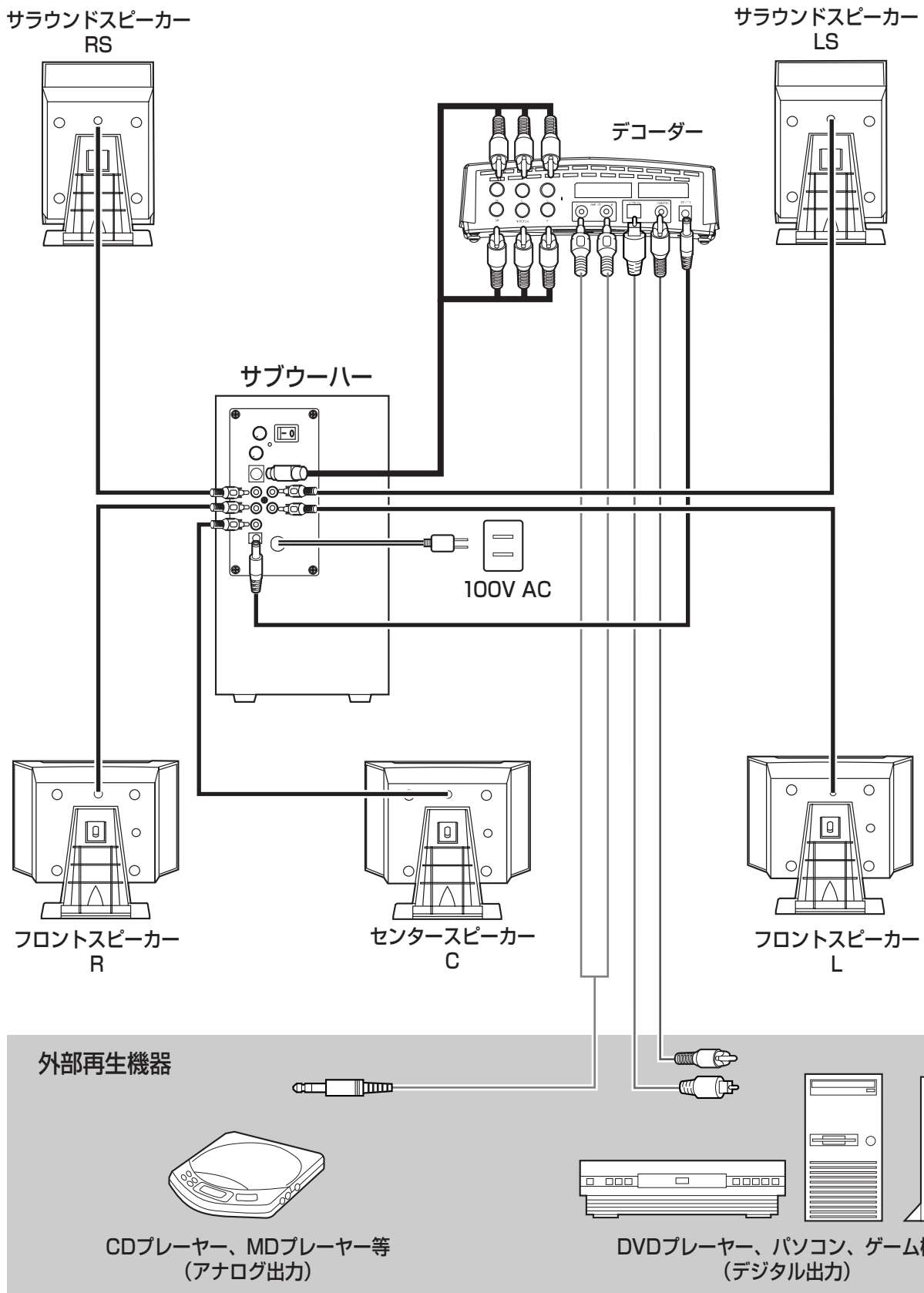
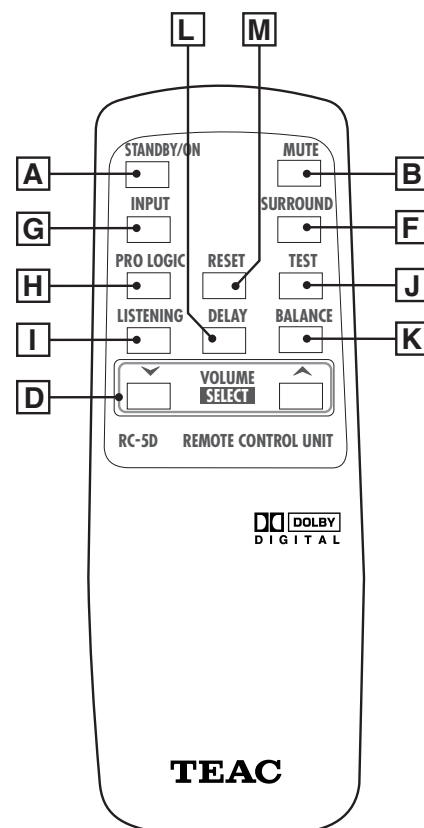
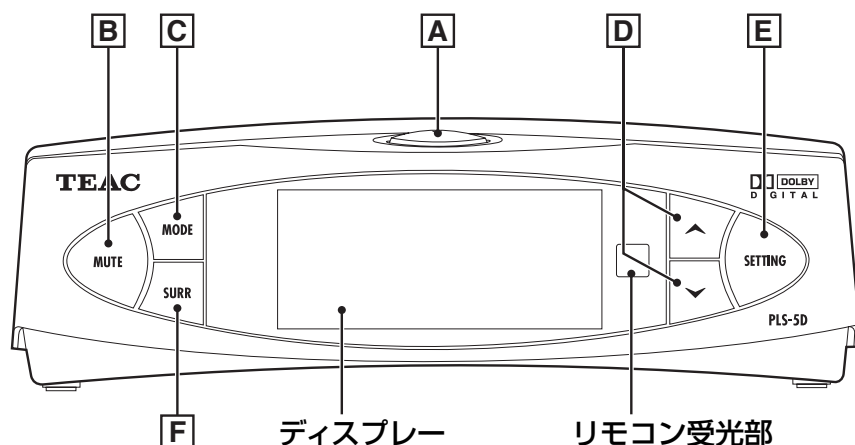
ドルビーデジタル音声を再生する場合は、再生する機器（DVDプレーヤーなど）と本機を、デジタルケーブルで接続してください。
また、CDプレーヤーなどのデジタル音声を再生する場合も、デジタルケーブルで接続してください。

- 市販のデジタルオーディオ用光ケーブルまたは同軸ケーブルをご使用ください。
- 光デジタル端子には角形と丸形があります。（本機は角形）お持ちの機器に合わせてデジタルケーブルをお選びください。
- 光デジタル入力端子を使用するときは、キャップを外してください。使用しないときはキャップを付けておいてください。

■アナログ接続

CDプレーヤーやカセットデッキなどのアナログ音声を入力することができます。

- 白いピンプラグを白（L：左）端子に、赤のピンプラグを赤（R：右）端子に接続してください。

- 市販または付属のオーディオケーブルをご使用ください。

接続図全体

サラウンドスピーカー
RS
サラウンドスピーカー
LS
デコーダー
サブウーハー
100V AC
フロントスピーカー
R
センタースピーカー
C
フロントスピーカー
L
外部再生機器
CDプレーヤー、MDプレーヤー等
（アナログ出力）
DVDプレーヤー、パソコン、ゲーム機等
（デジタル出力）

各部の名称

A 電源ボタン
電源のオン／オフをします。

B ミュートボタン
一時的に音を消したいときに押してください。

C モードボタン
以下のモードを調整するときに使用します。
1．INPUT（入力手動切換）
2．PROLOGIC CONFIG（ドルビープロロジック切換）
3．LISTENING MODE（再生モード切換）

D 音量調整/選択ボタン
音量の調整をするときや、各種設定に使用します。

E セッティングボタン
以下の各種設定に使用します。
1．SPK CFG（スピーカーの設定）
2．TEST TONE（テストトーン再生）
3．DELAY（ディレイタイム調整）
4．BALANCE（スピーカー音量バランス調節）
5．RESET（設定解除）

F サラウンドボタン
サラウンドモードを切り換えるときに使用します。

G インプットボタン
入力の切り換えをするときに使用します。

H PRO LOGIC CONFIG（プロ ロジック コンフィグ）ボタン
プロロジックの設定をオン／オフするときに使用します。

I リスニングモードボタン
再生モードを切り換えるときに使用します。

J テストトーンボタン
テストを実行するときに使用します。

K バランスボタン
バランス調整をするときに使用します。

L ディレイボタン
ディレイタイムを設定するときに使用します。

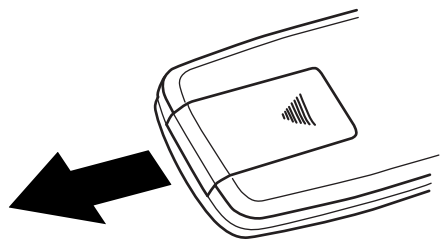
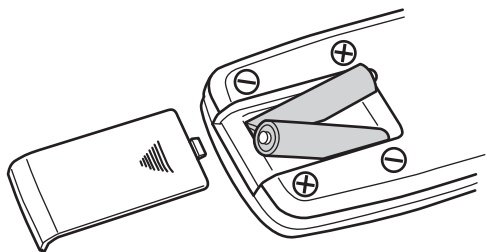
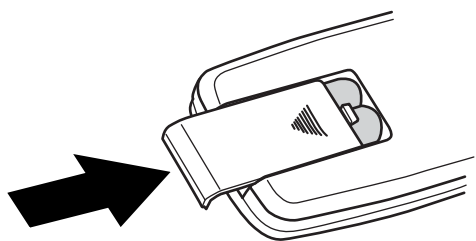
M リセットボタン
すべての設定を初期にもどします。

リモコンの準備をする

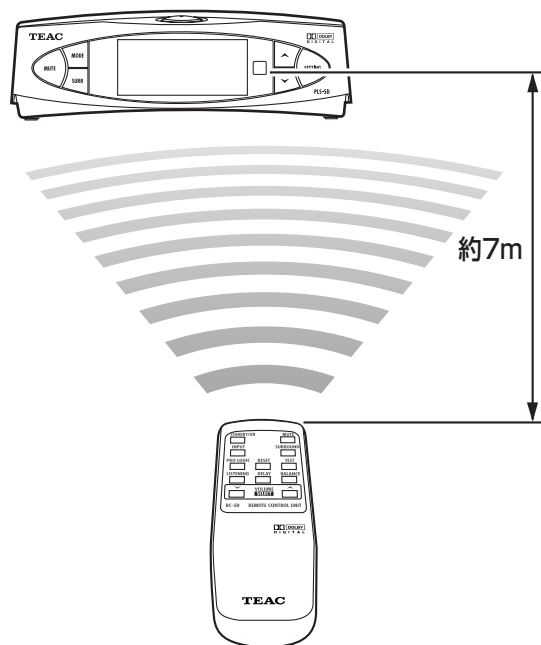
使用上の注意

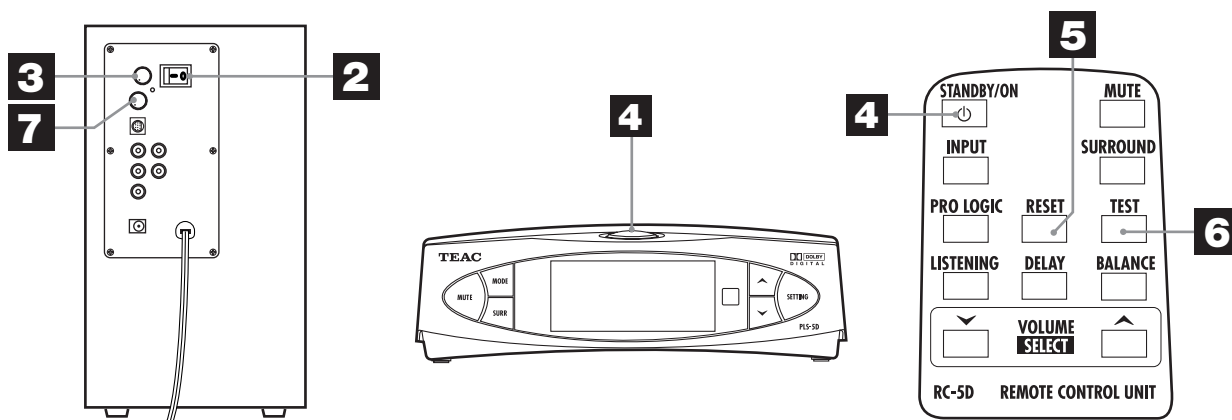
● リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
● 赤外線を使用した機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用したりすると誤動作の原因となりますので、ご注意ください。

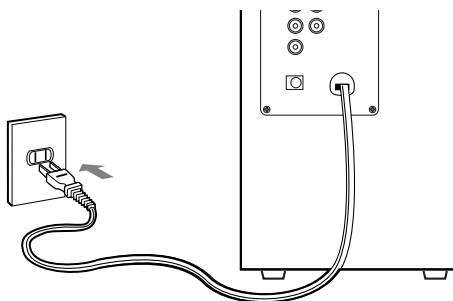
■電池の入れ方

1 カバーを矢印の方向にずらして外します。

2 ケースの⊕と⊖の表示に合わせて単4乾電池を2本入れます。

3 カバーを戻します。

電池についての注意

⚠ 乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

●乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
●新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
●乾電池は絶対に充電しないでください。
●長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
●液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

動作テストをする

実際の操作の前に、接続が正しいかをテストします。

1

サブウーハーの電源コードをコンセントに差し込みます。

2

サブウーハーの電源を入れます。

3

サブウーハーのBASS（バス） LEVEL（レベル）を中間位置まで回します。

4

リモコンでは

STANDBY/ON

デコーダーの電源を入れます。

5

リモコンのRESET（リセット）ボタンを2回押します。（この操作により、デコーダーを初期設定に戻します。詳細は30ページの「■リセット」を、ご参照ください。）

6

リモコンのTEST（テスト）ボタンを押します。（テスト音が発生しているスピーカーが、ディスプレー左側絵表示に出ます。）

7

サブウーハーのMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）を少しずつ回して、音量を上げていき、各スピーカーから順に音が出ることを確認してください。
確認後TEST（テスト）ボタンを押してテストを終了します。

ディスプレーの絵表示と違うスピーカーから音が出る場合

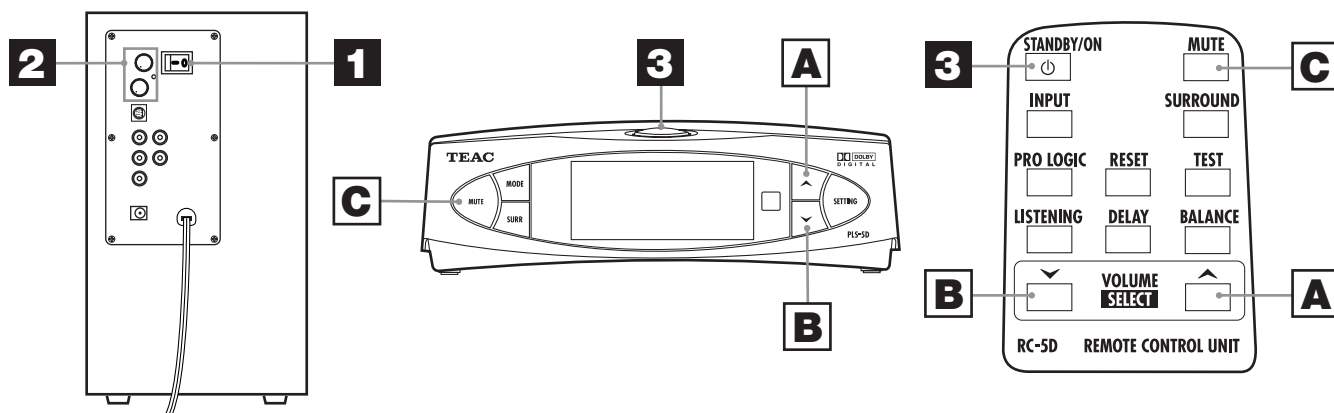
⬇

もう一度接続をやり直してください。（10-11ページ）

注意

- ここに示すMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）およびBASS（バス） LEVEL（レベル）は動作テスト用の設定です。実際の使用では、お好みの音量に調整してください。
- 電源を入れたとき電気ノイズが発生することがありますが、故障ではありません。
- 音を大きくすると、かすかな連続音が各スピーカーから聞こえることがありますが故障ではありません。

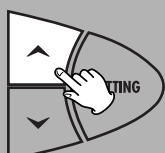
基本操作

■電源の入れ方および音量調整

サブウーハーの電源を入れる。

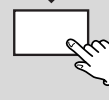
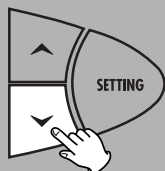
サブウーハー裏面のMASTER VOLUME（マスター ボリューム）とBASS LEVEL（バス レベル）を調整する。

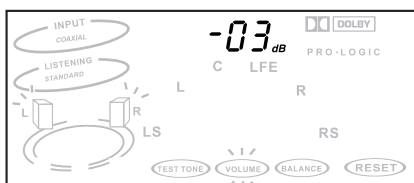
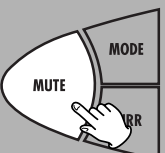
この操作は最初だけで、日常の音量調整はデコーダーで行います。

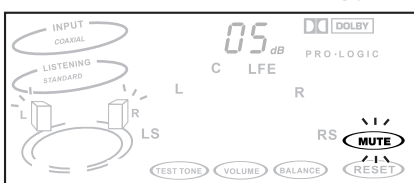
デコーダーの電源を入れる。

デコーダーのパワーボタンを押します。

音量を上げる。

デコーダーの ︿ ボタンを押すと、音が大きくなります。

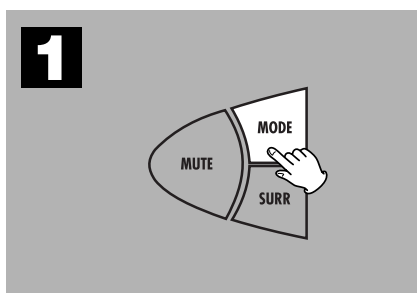
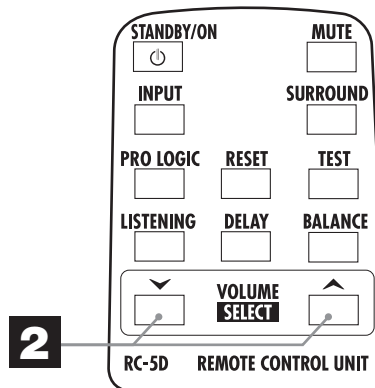
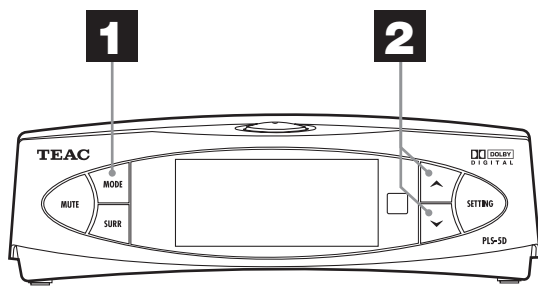
● ディスプレーの音量表示（dB（デシベル））の数値が大きくなります

音量を下げる。

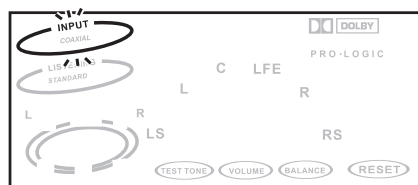
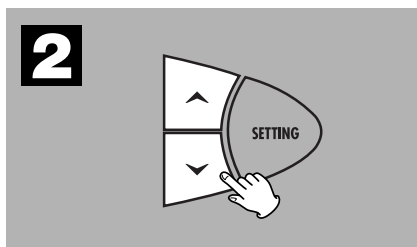
デコーダーの ﹀ ボタンを押すと、音が小さくなります。

● ディスプレーの音量表示（dB（デシベル））の数値が小さくなります

音を一時的に消す。

デコーダーのMUTE（ミュート）ボタンを押すと、音を消すことができます。

●ディスプレーのMUTE（ミュート）が点滅します。

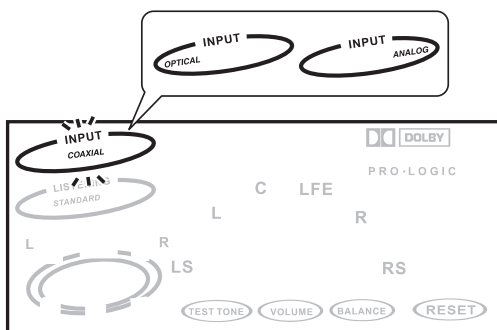
再度ボタンを押すと元に戻ります。

基本操作

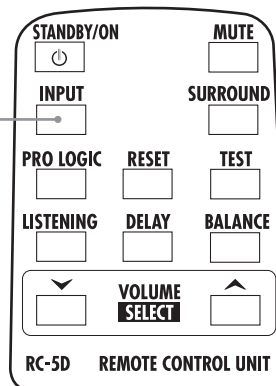
■入力切り換え

デコーダーのMODE（モード）ボタンを1回押し、INPUT（インプット）モードにする。

● ディスプレイ上の INPUT（インプット） が点滅します。

はリモコンでも操作できます

入力を切り換える。

デコーダーの ボタンを押して切り換えます。

ANALOG（アナログ）↔COAXIAL（コアキシャル）↔OPTICAL（オプティカル）

の順で切り換わります。

●デコーダーのMODE（モード）ボタンを押すか、8秒間なにもしないと、選んだモードが確定して、通常画面に戻ります。

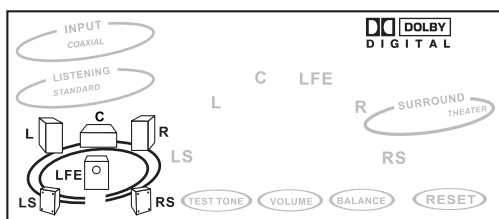
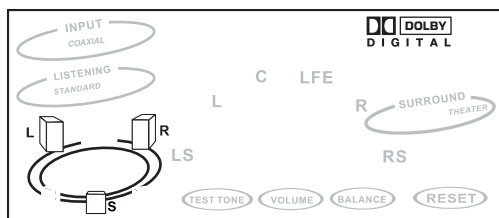
●リモコンでも入力モードを切り換えることができます

■サラウンドの再生

DVDやCDを再生してサラウンドを楽しみましょう。

DOLBY DIGITAL

ドルビーデジタル

ドルビーデジタル信号を入力した場合、本機は自動でドルビーデジタルモードになります。

ドルビーデジタル 5.1CHの場合

ドルビーデジタル 2CH サラウンドの場合

●サラウンドスピーカーLS, RSからは、同じ音声が出力されます。
●ドルビープロロジックの設定をOFFにすると、音声はステレオになり、サラウンドスピーカーからは出力されません。
●ドルビーデジタル2CH(ステレオ)の信号の場合、ドルビープロロジックの設定をONにすれば、サラウンド音声になります。

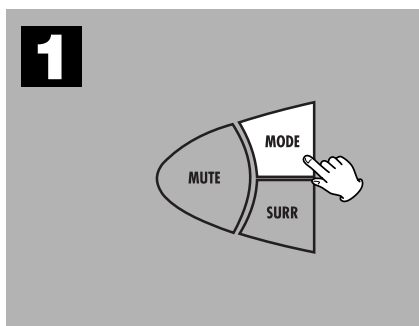
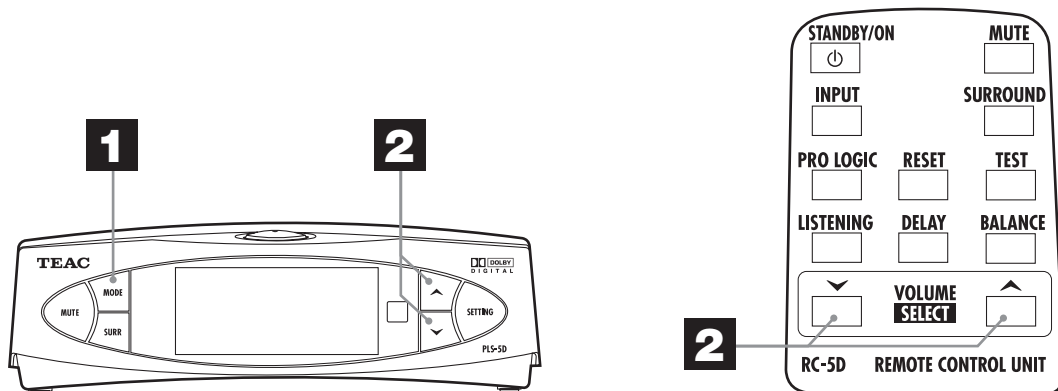
DOLBY SURROUND PRO・LOGIC

ドルビープロロジック

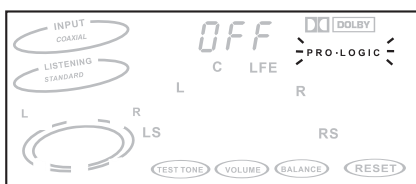
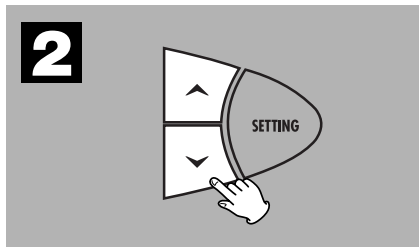
2CH(ステレオ)の信号でも、ドルビープロロジックでサラウンドを楽しむことができます。

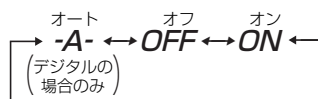
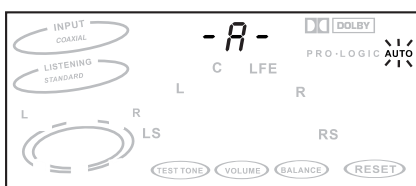
ドルビープロロジックの設定をONにしてください。（21ページ）

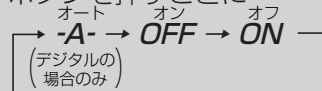
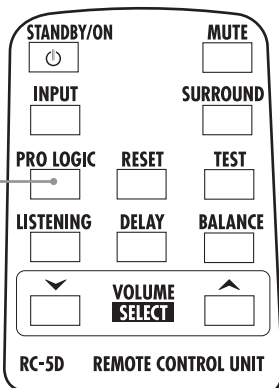
■ドルビープロロジックの設定

1

デコーダーのMODE(モード)ボタンを2回押し、ドルビープロロジック設定モードにする。

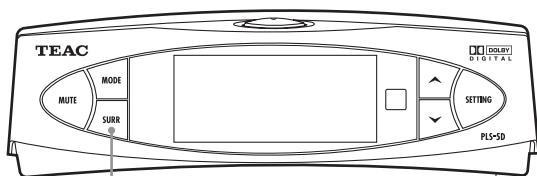
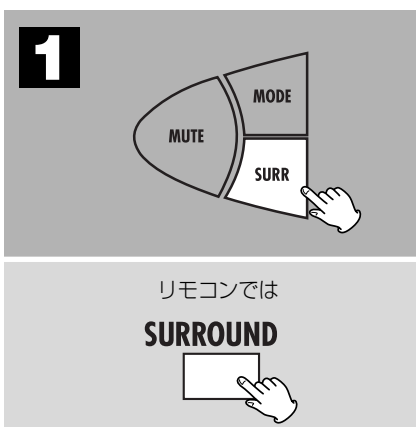
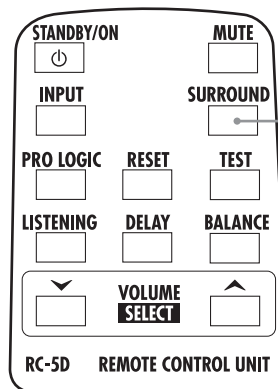
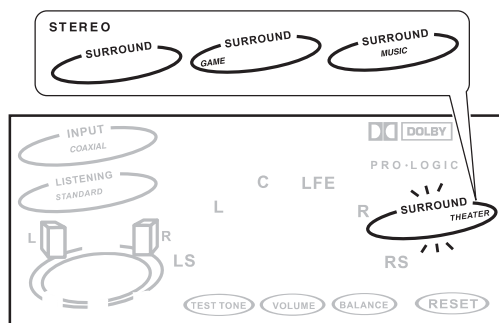
ディスプレーのPRO(プロ)・LOGIC(ロジック)の表示が点滅します。

2

ON(オン)/OFF(オフ)を切り換える。

デコーダーの ⌄ ⌃ボタンを押してディスプレーの表示を切り換えます。

の順で切り換わります。

- デコーダーのMODE(モード)ボタンを2回押すか、8秒間なにもしないと、選んだモードが確定して、通常画面にもどります。
- *-A-* にすると、ディスプレー右上にAUTO(オート)が表示されます。

●リモコンでドルビープロロジックの設定をすることができます

■ サラウンドモードの切り換え

使用目的に応じたてプロロジックサラウンドの前後バランスを変更します。

注意：サラウンドモード切り換えはINPUTモードがANALOGの場合にのみ有効です。COAXIALおよびOPTICALの場合は切り換えができません。

デコーダーのSURROUNDボタンを押し、サラウンドモードを切り換える。

ディスプレーのSURROUNDの表示が点滅します。

ボタンを押すごとに

THEATER→*MUSIC*→*GAME*→*STEREO*(切)

の順で切り換わります。

注意：このサラウンドモードの切り換えをおこなうと、STEREO(切）以外では、20ページでおこなったドルビープロロジックの設定が、自動でオンになります。

● 各モードの説明

THEATER

特にバランスなどを加工しない再生で、映画に最適な設定です。

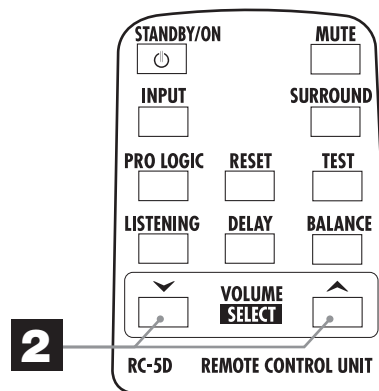
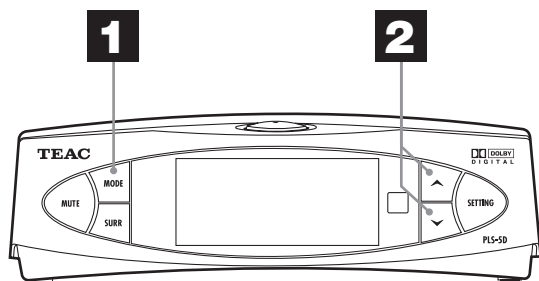
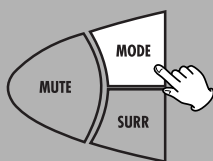
MUSIC

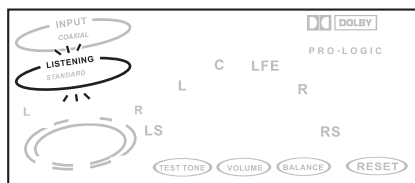
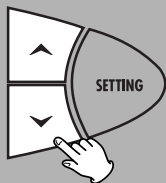
リアのバランスを5dB大きくした再生となります。音楽の再生に適した設定で、ホールエコーが強調され、音楽に包み込まれる印象があります。

GAME

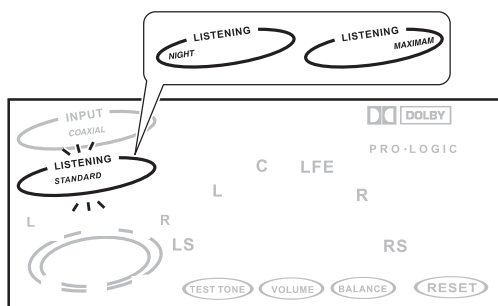
フロント3チャンネルとサブウーハーを5dB大きくした再生となります。モニターの周囲に迫力あるサウンドが再生され、より臨場感のあるゲームを楽しむことができます。

■ リスニングモードの切り換え

お聴きになる音量に応じた再生モードをお選びいただけます。

デコーダーのMODE（モード）ボタンを3回押し、リスニングモードにする。

ディスプレーのLISTENING（リスニング）の表示が点滅します。

リスニングモードを切り換える。

デコーダーの ⌄ ⌃ ボタンを押して切り換えます。

MAXIMUM（マキシマム）↔*STANDARD*（スタンダード）↔*NIGHT*（ナイト）

の順で切り換わります。

● デコーダーのMODE（モード）ボタンを1回押すか8秒間なにもしないと、選んだモードが確定して、通常画面にもどります。

●リモコンでリスニングモードの選択をすることができます

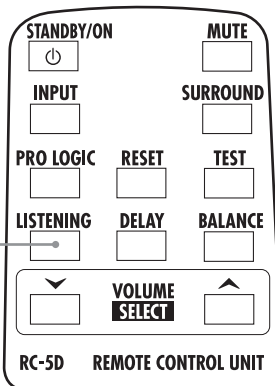
リスニングモードを切り換る。

LISTENING（リスニング）ボタンを押すごとに

NIGHT（ナイト）→*STANDARD*（スタンダード）→*MAXIMUM*（マキシマム）

の順で切り換わります。

● 各モードの説明

NIGHT（ナイト）

夜間小音量で鑑賞する際、低音と高音が不足気味に感じられるのを補正します。一般的に「ラウドネス」といわれる機能です。

STANDARD（スタンダード）

特に補正しないモードです。
通常はこのモードです。

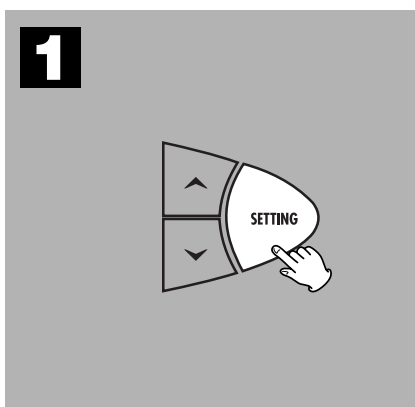
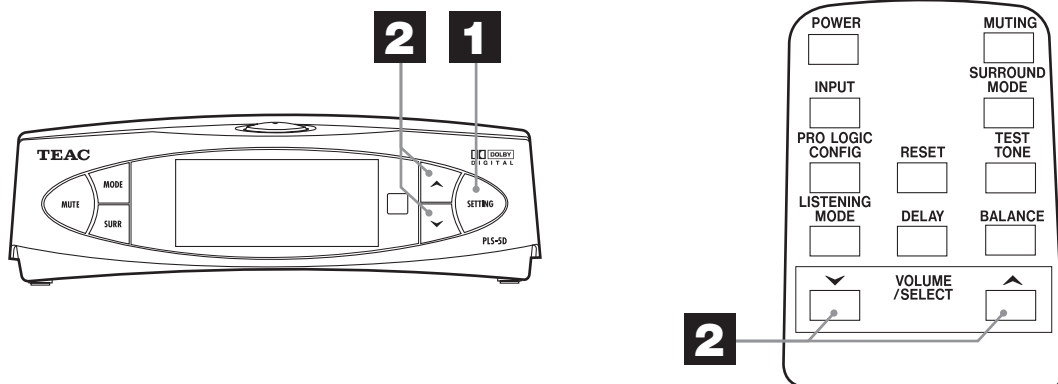
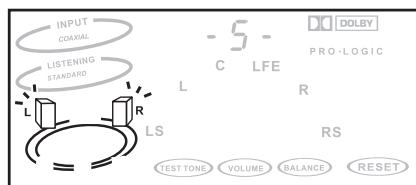
MAXIMUM（マキシマム）

大音量での再生に向くように補正します。

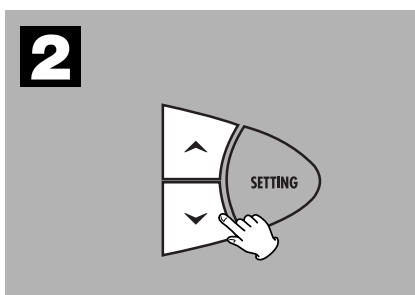
いろいろな設定/操作

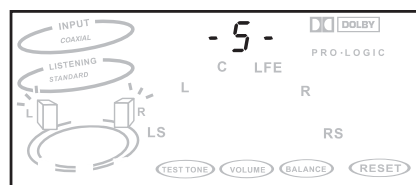
■スピーカーの設定

付属のスピーカーセットをご使用の場合は、この調整は必要ありません。

1

デコーダーのSETTING（セッティング）ボタンを押し、調整したいスピーカーを選ぶ。

●SETTING（セッティング）ボタンを一回押すごとにスピーカーが切り換わります。
ディスプレーの絵表示で、調整を希望するスピーカーを点滅させてください。
L+R→C→LS+RS→LFE
の順で切り換わります。

LFE：定位には関係のない低音部分だけを取り出して、専用のスピーカー（サブウーハー）から出力するものです。

2

設定内容を切り換える。

デコーダーの ⌄ ⌃ ボタンを押して設定内容を切り換えます。

●通常画面になるまで、デコーダーのSETTING（セッティング）ボタンを押す（12―15回）か、8秒間なにもしないでおくと、選んだモードは確定します。

⌄ ⌃ はリモコンでも操作できます

●設定内容はディスプレーの上部中央に表示されます。ディスプレーには各スピーカーの設定が次のように表示されます。

- -L- ＝「LARGE」（ラージ/比較的大きなスピーカーを使用する場合）
- -S- ＝「SMALL」（スモール/比較的小さなスピーカーを使用する場合）
- -N- ＝「NONE」（消音/そのチャンネルのスピーカーを使用しない場合）
- ON ＝「ON」（入/使用する）
- OFF ＝「OFF」（切/使用しない）

	-L-（ラージ）	-S-（スモール）	-N-（消音）
フロント L, R	○	○	×
センター C	○ ※1	○	○
サラウンド LS, RS	○ ※1	○ ※2	○ ※3

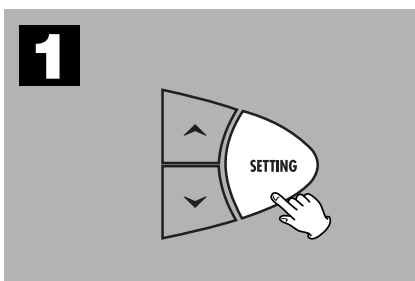
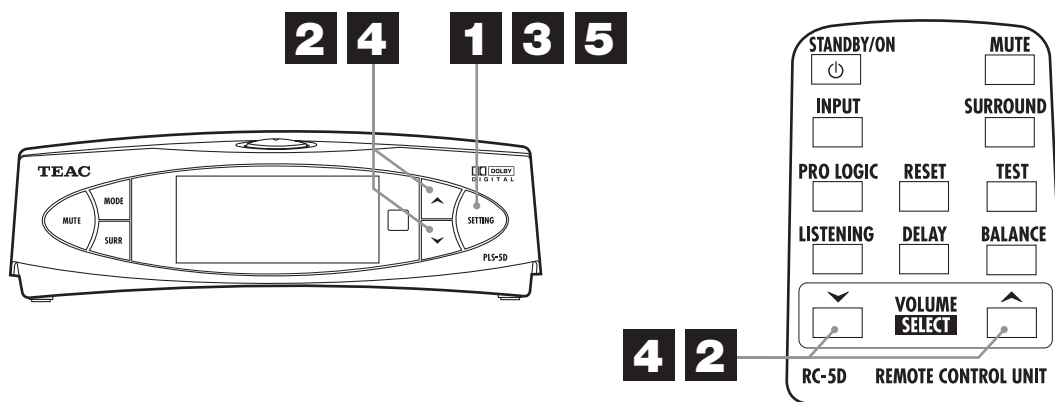
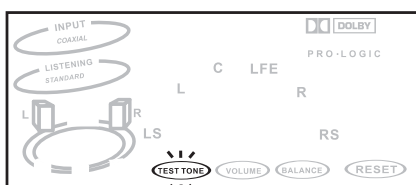
サブウーハー	ON ※4（使用する）	OFF ※1（使用しない）

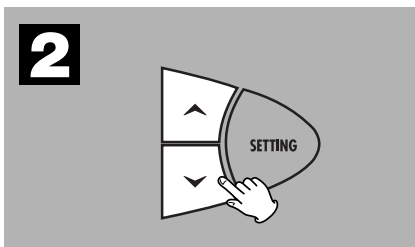
※1 フロントスピーカーが -S-（スモール）のときは、選べません。
※2 センタースピーカーが -L-（ラージ）のときは、選べません。
※3 サラウンドスピーカーを -N-（消音）にするとドルビーデジタル5.1CH、ドルビープロロジックは再生できません。
※4 フロントスピーカーが -L- で、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーが -S- のときは選べません。

いろいろな設定/操作

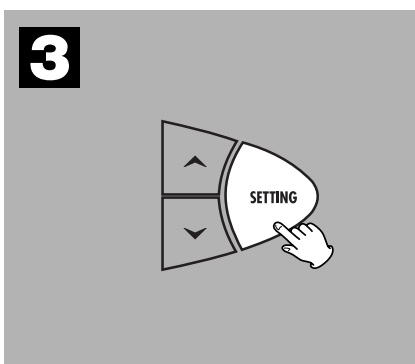
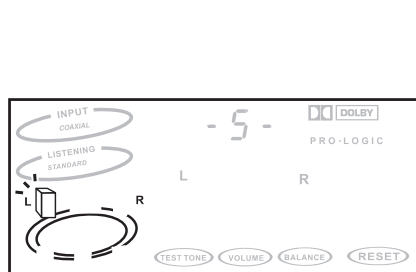
■テストトーンを使って音量調節をする。

各スピーカーからの音量が一定になるように調整します。本体のボタンでも調整できますが、実際にお聴きになる位置でリモコンで調整することをおすすめします。

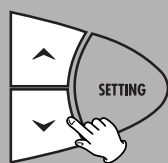
1

デコーダーのSETTINGボタンを5回押し、テストモードにする。

●ディスプレーのTEST TONEの表示が点滅します。

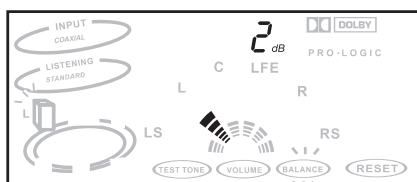
2

ディスプレイの表示を「YES」にし、テスト準備状態にする。

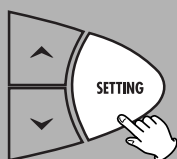
デコーダーの ⌄ ⌃ボタンを押してディスプレーの表示をYESにします。

3

デコーダーのSETTINGボタンを押し、テストトーンを出す。

各スピーカーから、順に約2秒ずつ、ザーというテストトーンが出ますので、確認してください。音が出ているスピーカーはディスプレー左側に絵が表示されます。

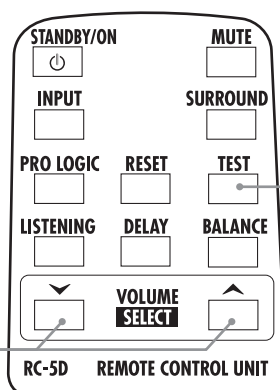
テストトーンの順

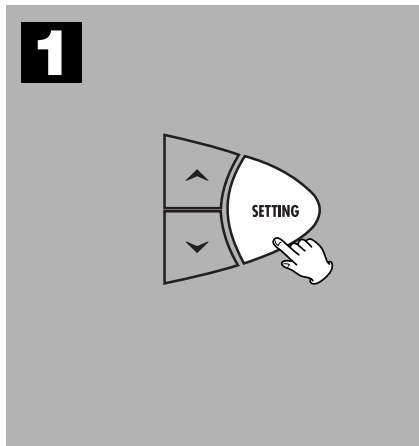
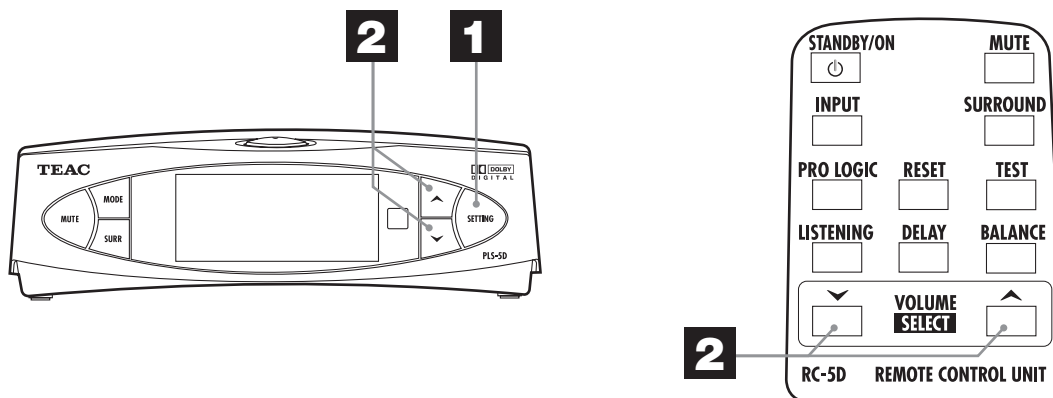
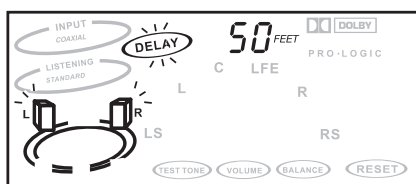
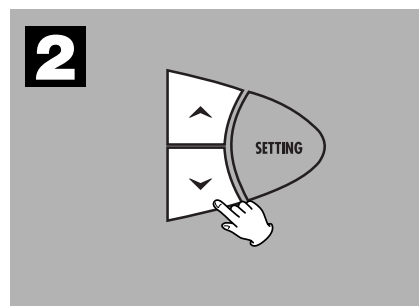
L→C→R→RS→LS→LFE

音量を調整する。

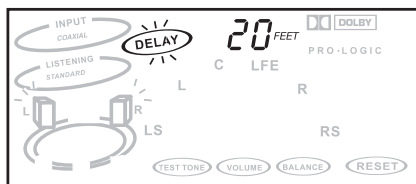
テスト音が出ている間に、デコーダーの ⌄ ⌃ ボタンを押して各スピーカーの音量を調整します。

※詳細は28ページの「バランス調整」をご覧ください。

5

テストトーンを終了する。

お好みの音量に調整されたら、SETTINGボタンを押して、別のモードにするとテストは終了します。
さらにSETTINGボタンを10回押すか、8秒間何もしないと、ディスプレーは通常画面に戻ります。

●リモコンでテストトーンを使って音量調整ができます。

■ディレイタイムの設定

部屋の広さ、形、スピーカーの配置、聴く人の位置に応じて最適なサラウンド効果を得るために、スピーカーのディレイタイムを調節することができます。ディレイタイムを長く設定すると大きめの音場空間に、短く設定すると小さめの音場空間になります。

デコーダーのSETTING(セッティング)ボタンを押し、ディレイタイムを設定するスピーカーを選択する。

- SETTING(セッティング)ボタンを6回押すと、L+Rのディレイモードになります。
- SETTING(セッティング)ボタンを7回押すと、Cのディレイモードになります。
- SETTING(セッティング)ボタンを8回押すと、LS+RSのディレイモードになります。
- ディスプレーのDELAY(ディレイ)の表示が点滅し、上部の数字の単位がFEET(フィート)に変わります。

ディレイタイムを設定する。

各スピーカーが点滅中に、デコーダーの ⌄ ⌃ ボタンを押してディレイタイムを設定します。

- ディレイタイムの単位はFEET(フィート)単位で表示されます。調整できる範囲は0から60FEET(フィート)です。(下記の**メートル：フィート換算表**を参考に設定をおこなってください。)

⌄ ⌃ はリモコンでも操作できます

VOLUME SELECT

- 通常画面になるまでデコーダーのSETTING(セッティング)ボタンを押すか、8秒間なにもしないで通常画面になると、選んだ数値は確定します。他のスピーカーを設定する場合は **1** へ戻ります。

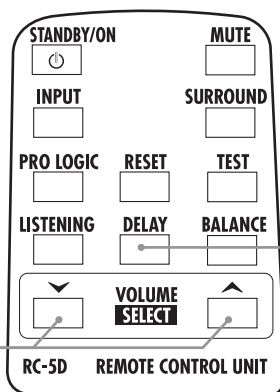
メートル：フィート換算表

フィート	10	20	30	40	50	60
メートル	3	6	9	12	15	18

⚠設定時のご注意

- ディレイタイムの効果は、フロントスピーカーに対するセンタースピーカー、リアスピーカーの相対的なディレイタイムの値で決まります。フロントスピーカーのディレイタイムは 0（ゼロ）のままにしてください。
- センタースピーカー(C)の調節範囲には制限があり、フロントスピーカー(L, R)の±5FEET（フィート）までの範囲です。
- サラウンドスピーカー(LS, LR)の調節範囲には制限があり、フロントスピーカー(L, R)の−25FEET（フィート）までの範囲です。

●リモコンでもディレイを設定することができます

STANDBY/ON
MUTE
INPUT
SURROUND
PRO LOGIC
RESET
TEST
LISTENING
DELAY
BALANCE
VOLUME
SELECT
RC-5D
REMOTE CONTROL UNIT

1.ディレイタイムを設定するスピーカーを選択する。

DELAY（ディレイ）ボタンを押すごとに

→L+R→C→LS+RS→通常画面

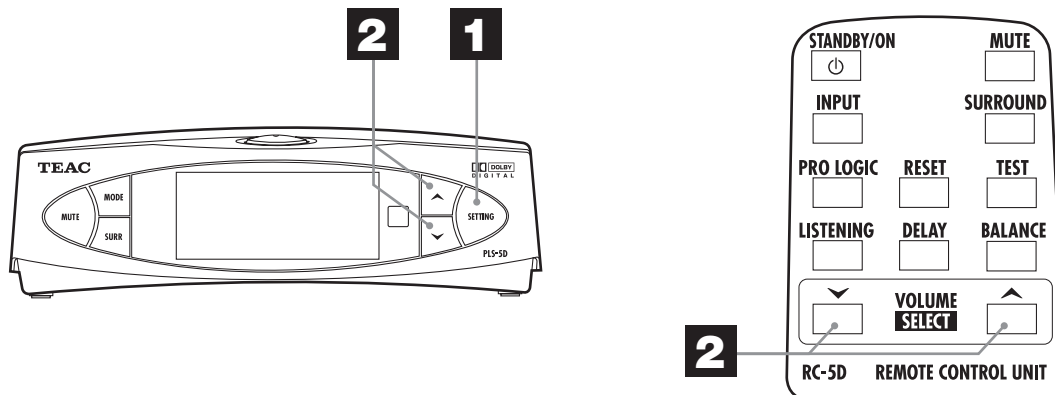
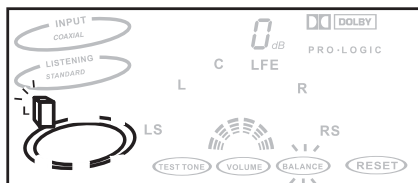
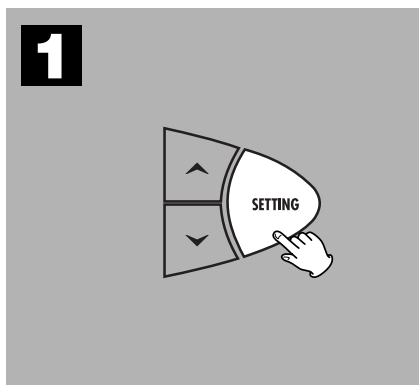
の順に絵表示が点滅します。

2.ディレイタイムを設定する。

FEET（フィート）の値が変化します。

■バランス調整

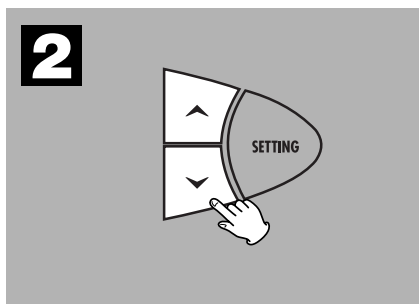
スピーカーごとに音量を設定して、全体のバランスを調整する機能です。

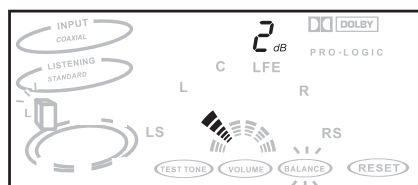
1

デコーダーのSETTINGボタンを押し、バランス調整をするスピーカーを選択する。

●ディスプレー左側イラスト表示で、調整したいスピーカーが点滅するまで押して下さい。

●SETTINGボタンを押す回数と、調整するスピーカーの関係は下記の通りです。

9回 .... L　10回 .... C　11回 .... R
12回 ....RS　13回 ....LS　14回 ....LFE

●ディスプレーのBALANCEの表示が点滅します。

2

スピーカーの音量を調整する。

デコーダーの ⌄ ⌃ ボタンを押して各スピーカーの音量を調整します。

⌃ を一回押すと数値が1dB単位で大きくなり、
⌄ を押すと数値が1dB単位で小さくなります。

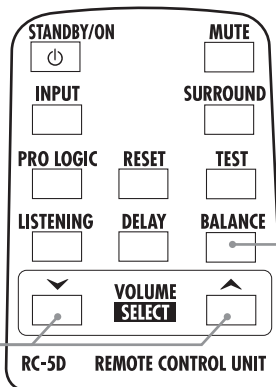
ディスプレーの上部に数値が表示され、レベルインジケーター部分も連動して変化します。

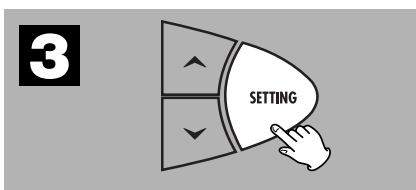
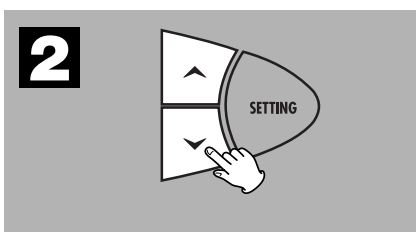
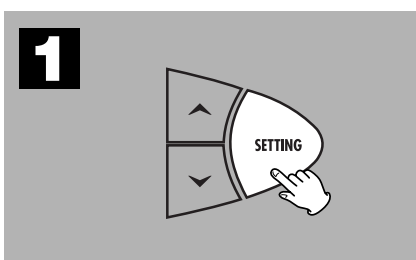
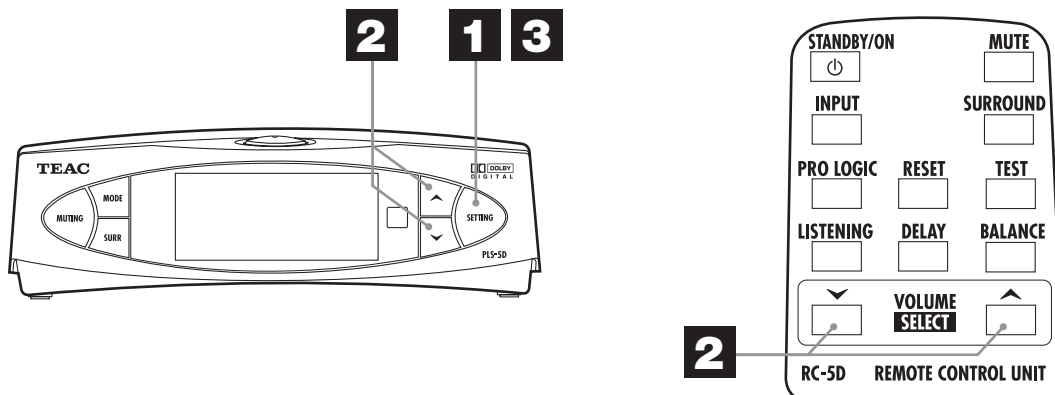
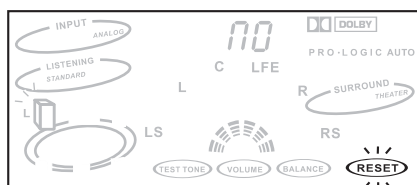
⌄ ⌃ はリモコンでも操作できます

●調整可能範囲は±5dBです。

●通常画面になるまでデコーダーのSETTINGボタンを押す(2〜7回)か、8秒間なにもしないで通常画面になると、選んだ数値は確定します。

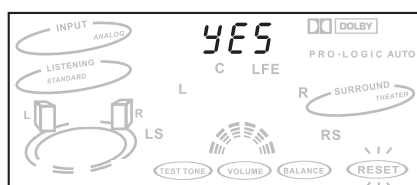
●さらに次のスピーカーのバランスを調整する場合は、**1**へ戻ります。

●リモコンでもバランスを調整することができます

■ リセット

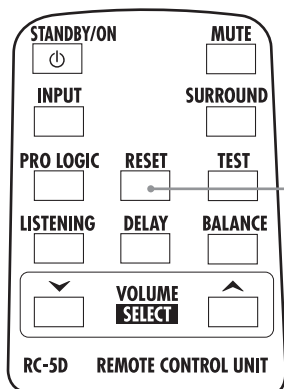
すべての設定を工場出荷時の設定にもどします。

デコーダーのSETTING（セッティング）ボタンを15回押してリセットモードにする。

●ディスプレーのRESET（リセット）の表示が点滅します。

ディスプレイの表示を「YES（イエス）」にする。

デコーダーの ⌄ ⌃ ボタンを押して、ディスプレーの表示をYES（イエス）にします。

●ボタンを押すたびにYES（イエス）↔NO（ノー）が切り換わります。

SETTING（セッティング）ボタンを押し、設定をリセットする。

すべての設定がリセットされます。

●リモコンでもリセットすることができます

リセットする。

RESET（リセット）ボタンを一回押し、ディスプレイの表示がYES（イエス）になっているあいだに、再度RESET（リセット）ボタンをおすと、すべての設定がリセットされます。

注意：リモコンでのリセット操作は、誤ってリセットしないよう、モード待機時間が、デコーダーでの操作に比べ短く設定されています。

おや！故障かな？

状　況	調べるところ	直し方	参照ページ
電源が入らない。	電源コードがコンセントに正しく接続されていない。	コンセントにプラグをしっかりと差し込んでください。	16
	電源供給ケーブルが正しく接続されていない。	電源供給ケーブルを端子にしっかりと差し込んでください。	11
音が出ない。	サブウーハー背面のMASTER VOLUMEが最小になっている。	お聴きになる音量までボリュームを上げてください。	16
	入力モードが再生している機器と違っている。	再生機器にあわせて、入力を切り換えてください。	18
	ミュート状態になっている。	ミュートを解除してください。	17
	スピーカーや再生機器との接続が不完全である。	各端子の接続状態を確認してください。	10~13
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカーの設定がNONEになっている。	センタースピーカーの設定をSMALLまたはLARGEにしてください。	23
サラウンドスピーカーから音が出ない。	サラウンドスピーカーの設定がNONEになっている。	サラウンドスピーカーの設定をSMALLまたはLARGEにしてください。	
サブウーハーから音が出ない。	サブウーハーの設定がOFFになっている。	サブウーハーの設定をONにしてください。	
	サブウーハー背面のBASS LEVELが最小になっている。	お聴きになる音量までボリュームを上げてください。	16
ドルビーデジタルモードにならない。	ソース側のドルビーデジタル出力がオフになっている。	ソース側の音声出力設定等を確認し、ドルビーデジタル出力をオンにしてください。	
	ソースがドルビーデジタルの音声でない。	ドルビーデジタルの音声の入ったソースを再生してください。	
	アナログソース(ANALOG)を選んでいる。	デジタルのソース(OPTICAL, COAXIAL)を選んでください。	18
サラウンドモードが選べない。	デジタル(OPTICAL, COAXIAL)モードになっている。	入力モードをアナログ(ANALOG)に設定してください。	
リモコンで動作しない。	電池がなくなっている。	電池を交換してください。	15
	デコーダーの前に障害物がある。	障害物を取り除いてください。	
使っているうちに本体が熱くなる。	この機器を長時間使用している。	この機器は多少熱くなりますが故障ではありません。**異常に温度が高くなった場合は、使用を中止してください。**	
点検後、なお異常がある場合。	使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または最寄りの当社営業所にお問い合わせください。		

おもな仕様

デコーダー
- 入力インピーダンス（デコーダー）..........................59kΩ
- 出力レベル（デコーダー）..........................3.2V
- 外形寸法(W x H x D)................................183mm x 60mm x 132mm
- 質　量 0.4kg

フロント/サラウンド/センタースピーカー
- フルレンジ 7.5cm
- インピーダンス...4Ω
- 再生周波数特性...80Hz〜20kHz
- 最大入力 3W
- 外形寸法(W x H x D)................................130mm x 88mm x 85mm（スタンド含まず）
- 質量 ....0.5kg　（コード含まず）

サブウーハー
- サブウーハー...10cm
- インピーダンス...4Ω
- 最大入力 20W
- 再生周波数特性...40Hz〜120Hz
- 外形寸法(W x H x D)................................150mm x 261mm x 239mm
- 質量 3.9kg

アンプ部
- 定格出力
  - フロント/センター/サラウンド（各チャンネルにつき）............2.5W (RMS)
  - サブウーハー ....15W (RMS)
- S/N比 ....45dB（サブウーハーは35dB）

付属品
- リモコン（RC-5D）
- リモコン用乾電池（単4）x 2本
- 接続ケーブル　1本
- 電源供給ケーブル　1本
- デジタル同軸ケーブル　1本
- ピンケーブル　1本
- サテライトスピーカー固定スタンド　5コ
- サテライトスピーカー用角度可変スタンド　4コ
- 取付けネジ（スタンド用ネジ　10コ、　木ネジ　10コ）
- ワッシャー　4コ
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

お手入れ

⚠ご注意　**お手入れは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。**

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤液を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。
化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

保証とアフターサービス

よくお読みください

■保証書

保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容ををご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

■補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスセンター(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

30ページの「おや!故障かな？」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスセンターにご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費等が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：ホームシアターシステム　PLS-5D
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

TEAC

保　証　書

型　　名	PLS-5D		
保証期間	1年	お買い上げ日	年　　月　　日
お客様	ご住所		
	お名前		電　話　(　　　)

この保証書は、記載内容により、無料修理を行うことをお約束するものです。
お買い上げ日から保証期間内に故障が発生した場合、商品と共に本書をご提示の上、修理をご依頼ください。

販売店名

ティアック株式会社

国内営業部　〒180-8550　東京都武蔵野市中町3-7-3　☎(0422)52-5073

東京営業所　〒100-0014　東京都千代田区永田町2-10-7　星が岡会館　☎(03) 3592-1831(代)
大阪営業所　〒564-0062　大阪府吹田市垂水町3-34-10　☎(06) 6384-5201(代)
名古屋営業所　〒465-0025　名古屋市名東区上社5-406　☎(052) 702-3100(代)
広島営業所　〒730-0846　広島市中区西川口町13-19　☎(082) 294-4751(代)
福岡営業所　〒812-0008　福岡市博多区東光2-2-24　☎(092) 431-5781(代)
仙台営業所　〒981-3135　仙台市泉区八乙女中央3-2-30 リバーサイドヒル及川　☎(022) 218-0007(代)
札幌営業所　〒064-0807　札幌市中央区南7条西2-2　くぼたビル　☎(011) 521-4101(代)

1000・MA-0450A　Printed in China